



今日のトピック 2022年は出遅れている新興国株に注目 ファンダメンタルズが良好なアジア株が優位

ポイント1 新興国株の相対パフォーマンスは反発

■ 今年に入り、米連邦準備制度理事会（FRB）による早期金融引き締め観測からハイテク株を中心に米国をはじめとする先進国株市場は大幅に下落しています。一方、新興国株市場は比較的小幅の下げにとどまっています。このため新興国株の先進国株に対する相対パフォーマンスは足元でやや改善しました。金融引き締め観測で割高感の強まった先進国株から出遅れている新興国株へ投資マネーが一部シフトした可能性があります。

(ポイント) 【新興国株の対先進国株相対パフォーマンス】



(注) データは2005年1月3日～2022年1月25日。
2005年1月3日 = 1.00。MSCI配当込みドルベースでの比較。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 健全度の高いアジア株は 選好されやすい

- 昨年来の米利上げ観測の高まりで新興国株は敬遠され、相対パフォーマンスが2005年以降で最低水準に下落していました。新興国は経常収支が赤字で、国外からの資金に頼る成長モデルのため、世界の基軸通貨である米ドル金利が上昇すると経済が苦境に陥るとの見方が強まったためと考えられます。
- ただ、新興国の中でもアジア諸国は輸出競争力があり、経常黒字の国が多い他、インフレも安定していて、相対的に健全度が高い状況です。さらに、1株当たりの予想利益の伸びは米国に引けを取りません。2022年は世界の中央銀行が金融引き締めへ舵を切る中、アジア株など出遅れていた新興国株が選好される可能性があります。

【地域別の経常収支の推移】



(注) データは2010年1-3月～2021年7-9月。4四半期累積額の推移。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【1株当たり利益の伸び率の地域別比較】

	2019年	2020年	2021年 (予想)	2022年 (予想)	2023年 (予想)	5年平均 成長率
アジア・パシフィック	▲5.5%	▲7.6%	39.4%	8.8%	12.6%	8.3%
米国	▲1.7%	▲12.8%	50.7%	7.4%	10.3%	8.9%
欧州	▲8.3%	▲29.9%	69.9%	7.5%	8.5%	5.0%
日本	▲31.0%	20.0%	37.5%	7.4%	6.6%	5.5%

(注) データは2019年～2023年。日本は年度。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも チェック! 2022年1月21日 今後の金融政策と米国株式市場 2022年1月13日 アジア・オセアニアリート市場は大きく上昇

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。